

25-05-08

2025 年度 名古屋鉄道 設備投資計画

～安全で快適な鉄道サービスの提供と沿線地域の活性化を推進～

名古屋鉄道では、「名鉄グループ中期経営計画」（2024 年度～2026 年度）に基づき、2025 年度設備投資計画をまとめました。

2025 年度においては、鉄道事業における安全・安定輸送確保および駅・車両の快適性向上に向けた投資のほか、沿線地域活性化に資する取り組みへの戦略的な投資を継続して行います。

■ 設備投資計画の概要

事業	主な投資項目	金額
I. 鉄道事業	1 安全・安定輸送確保 ・高架化工事の実施 ・高架橋柱の耐震補強や変電所の浸水対策工事の実施 ・安全性向上および省力化に向けた設備の新設・更新	170 億円
	2 駅・車両の快適性・利便性向上 ・通勤型車両 9500 系および 9100 系の新造（計 30 両） ・駅改良・バリアフリー化工事の実施 ・「お客さまサポートセンター」の機能拡充 ・新型券売機や新型チャージ機の導入	112 億円
	小計	282 億円
II. 開発事業	・賃貸レジデンス「meLiV 土橋」の開発 ・新一宮駅ビルのリニューアル ・東岡崎駅前再開発計画の推進 ・岐阜エリア開発計画の推進 ・名古屋駅地区再開発計画の推進	625 億円
III. その他	・沿線地域活性化および旅客サービス向上に資するシステム改善 ・業務効率化に向けた DX の推進	16 億円
	総合計	923 億円

(参考)名古屋鉄道を含む名鉄グループ設備投資計画の総額： 1,782 億円

I. 鉄道事業の主な項目

1. 安全・安定輸送確保

- 安全対策推進と都市計画事業の一環として、4カ所で高架化工事を継続実施する他、新たに新清洲駅付近での高架化工事を進めます。また、喜多山駅付近（下り線）および若林駅付近については、2025年度中の高架切替を予定しています。

	区間	距離	除却踏切数
知立駅付近 (名古屋本線・三河線)	一ツ木駅～牛田駅間	1.6km	2箇所
	重原駅～三河八橋駅間	3.4km	8箇所
喜多山駅付近 (瀬戸線)	小幡駅～大森・金城学院前駅間	1.9km	8箇所
若林駅付近 (三河線)	三河八橋駅～竹村駅間	2.2km	4箇所
荏安賀駅付近 (尾西線)	二子駅～名鉄一宮駅間	1.8km	3箇所
新清洲駅付近 (名古屋本線)	丸ノ内駅～大里駅間	2.8km	8箇所



知立駅付近の高架化工事



喜多山駅付近の高架化工事

- 南海トラフ地震や近年激甚化している豪雨による被害を防ぐため、高架橋柱の耐震補強や変電所の浸水対策工事をより一層推進します。
- 名古屋本線金山駅におけるホームドア実証試験の結果を踏まえて、金山駅への本格整備に向けた検討の深度化を図ります。
- 瀬戸線において実用化に向けた検証を実施している「軌道変位モニタリング装置」について、本運用に向けた検討を進めます。



軌道変位モニタリング装置搭載状況



軌道変位モニタリング装置

- 踏切障害物検知装置の更新や、AI 画像解析機能を備えた踏切監視システムを導入した踏切の拡大により、踏切道の保安度向上を図ります。

2. 駅・車両の快適性・利便性向上

- 車内の安全や環境に配慮した通勤型車両 9500 系・9100 系を計 30 両新造します。
※9500 系（4 両組成）5 編成、9100 系（2 両組成）5 編成



- 2026 年度以降の竣工に向けて、東岡崎駅の自由通路の設置に合わせた橋上駅化、豊田市駅の北口改札の新設等の駅改良工事、および春日井駅の駅周辺で実施される区画整理事業に合わせた駅改良工事を進めます。
- 中小田井駅において、ホームと車両間の段差・隙間の縮小やバリアフリートイレ設置等のバリアフリー化工事を実施します。また、奥町駅と猿投駅において、バリアフリートイレの設置工事を行います。
- 神宮前駅において、改札内トイレのリニューアル工事を行います。
- お客さまにより一層安心して鉄道をご利用いただくために、電話や駅インターホン等による各種お問い合わせ窓口となるお客さまサポートセンターにおいて、外国語通訳サービスを利用した三者通話機能などを実装します。
- 定期券発売およびクレジット決済対応が可能な新型券売機や、精算機能を追加した新型チャージ機の導入拡大を進めます。また、QR コードおよびクレジットカード等のタッチ決済による改札通過の実証実験を踏まえ、新型改札機の開発を行います。

Ⅱ. 開発事業の主な項目

○岐阜公園 Park-PFI 事業の推進

岐阜市との間で締結した岐阜公園官民連携にぎわい創出事業 Park-PFI 基本協定および認定計画に基づき、商業施設「岐阜城楽市（ぎふじょうらくいち）」を2025年4月26日に開業しました。

本施設は、「『岐阜』を嗜み、OMOTENASHI(おもてなし)を堪能する」をコンセプトに、7棟の木造平屋建ての建物に、地元の文化を感じられるお店等11店舗を誘致しています。



○土橋駅北口付近賃貸マンション計画の推進

名鉄三河線「土橋駅」から徒歩1分の場所に、賃貸レジデンス「meLiV 土橋」の開発を進めます。1階部分にサンルームを導入するなど、駅に近い場所に住むことで生まれるゆとりのある暮らしを実現できるマンションとなります。なお、竣工は2025年8月末を予定しています。



○ 新一宮駅ビルのリニューアル

「つむぎ彩る毎日を ～一宮(いちみや)十色(といろ)～」をリニューアルコンセプトに、日常を彩り豊かにつむぐ施設を目指して、設備更新や補修を行います。なお、店舗構成としては、食品スーパー、飲食店（レストラン・カフェ等）、食物販（お土産用の和洋菓子など）や物販店（アパレル・生活雑貨・日用品）、オフィス、クリニック等です。竣工および開業は 2025 年度下期を予定しています。

また、施設名称は「イチ＊ビル」に決定しました。名鉄一宮駅に直結し、一宮市新生 1 丁目 1 番 1 号に位置する本施設が、一宮という歴史ある地域で新たな一歩を踏み出す施設にふさわしいものとして選ばれました。「イチ」と「ビル」の間に配置した「＊（アスタリスク）」には、この場所が一宮の歴史の紡ぎ合う中心地となり、世代を超えた多くの人々が集い、交差し、結びつく場になるという願いを込めています。

○ 東岡崎駅前再開発計画の推進

東岡崎駅再開発計画の開発コンセプト「SWING HIGAOKA」に基づいて、先行して 2024 年に駅南口を開業した「SWING MALL」に続き、岡崎市と連携しながら駅北口で複合施設の開発を進めていきます。

なお、北口複合施設は 2029 年度竣工を予定しています。

○ 名鉄岐阜駅エリア再開発

駅周辺の名鉄グループ所有地を連携させ、駅前を活性化するとともに、駅からまちへの回遊性を生み出し、まちへと広がるような開発を目指して検討を進めます。また、鉄道・バス・タクシーの各交通手段へのアクセスについても、相互の利便性を高めることで利用促進を目指します

○ 名古屋駅地区再開発計画の推進

名古屋駅地区再開発計画を名鉄名古屋駅再整備とともに推進します。2025 年度は、2027 年度に予定する新築着工に向け、詳細検討を行う実施設計等を進めます。

Ⅲ. その他の項目

- エリア版 MaaS の推進に向け、「CentX」をさらにおでかけに便利なアプリとするべく、事業者や自治体との連携拡大および機能強化を図ります。

以 上